(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B1)　(11)特許番号
特許第6229190号
(P6229190)
(45)発行日　平成29年11月15日(2017.11.15)　(24)登録日　平成29年10月27日(2017.10.27)

(51)Int.Cl.　F I
A47J 43/28 (2006.01)　A47J 43/28

請求項の数 2　(全 5 頁)

(21)出願番号　特願2017-123950(P2017-123950)
(22)出願日　平成29年6月26日(2017.6.26)
審査請求日　平成29年7月4日(2017.7.4)

特許権者において、実施許諾の用意がある。

早期審査対象出願

(73)特許権者　715009189
堀江　清
宮城県仙台市若林区荒井二丁目８番地の１１
(72)発明者　堀江　清
宮城県仙台市若林区伊在字南通２９番地の２３

審査官　豊島　ひろみ

最終頁に続く

(54)【発明の名称】しゃもじ補助具

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
しゃもじに取付けるかご型の補助具であって、該補助具は複数の網目状の区画を有するかご部と、しゃもじの持ち手部と一緒に握る握り部と、しゃもじを固定するための第一の係止部とを備えたことを特徴とするしゃもじ補助具。
【請求項２】
前記しゃもじ補助具は、前記かご部に固定された掬い上げ部を有し、該掬い上げ部に第二の係止部を設けたことを特徴とする請求項１に記載のしゃもじ補助具。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
炊飯後にしゃもじで別容器に移す場合、塊り状になるのを防ぐために、米粒の外側の水分を飛ばすために、しゃもじに取り付けご飯をばらけさせてふんわりとさせる為の補助具である。
【背景技術】
【０００２】
業務用では炊飯後、米粒をつぶさずに、塊り状にならないように別容器に移すには長い経験が必要であったが、短時間でご飯をばらけさせてふんわりとさせるには1本のしゃもじだけでは困難であった。

【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００５－２６１９１８
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
炊飯後に別容器に移す場合、塊り状になるのを防ぐために米粒の外側の水分を蒸発させ米粒を潰さずに空気に触れさせるためにしゃもじを縦にして飯切りという行　　為をしてご飯をばらけさせる必要があったが業務の場合は時間に制限があり一本のしゃもじでは丁寧に隅々まで行き届かず潰れた米粒の塊りができ米の味覚の大きな役割である粒々感が失われていた。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明は、上記課題を解決する為に、しゃもじに取付けるかご型の補助具であって該補助具には複数の面が網目状に形成されていることを特徴とする。しゃもじにかご型の網目状の面を持った補助具を取り付けて、飯をすくいあげ、しゃもじをひっくり返して飯を落下させるため米粒をつぶさずに短時間で飯をばらけさせ空気に触れさせる事が出来るので、米粒の外側の水分を蒸発させる事が出来る。これによってご飯の塊りがなくなり長い経験も必要なく短時間で出来る。
【発明の効果】
【０００６】
本発明によれば、しゃもじにかご型の補助具を付ける事によって米粒を潰さずにほぐす事が出来る。これによって長い経験を必要とせず短時間でふんわりとした米飯になり別容器に移動する事が出来る。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】本発明のしゃもじ補助具を示す斜視図である。
【図２】本発明のしゃもじ補助具をしゃもじに装着した状態を示す斜視図である。
【図３】しゃもじの掬い部を備えた本発明のしゃもじ補助具を示す斜視図である。
【図４】（ａ）図は図３のしゃもじ補助具に大サイズのしゃもじを装着した状態を示す側面図であり、（ｂ）図は小サイズのしゃもじを装着した状態を示す側面図である。
【図５】（ａ）図は本発明のしゃもじ補助具をしゃもじに装着して飯を掬い上げた状態を示す図であり、（ｂ）図は（ａ）図のしゃもじをひっくり返した状態を示す図である。
【図６】（ａ）図は本発明のしゃもじ補助具を使用できる一般的なしゃもじを示す図であり、（ｂ）図は本発明のしゃもじ補助具を使用する際に最適なしゃもじを示す図であり、（ｃ）図は本発明のしゃもじ補助具を使用する際に最適なしゃもじを示す他の図であり、（ｄ）図は（ｃ）図のしゃもじを使用する際に最適なしゃもじ補助具を示す図である。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
図１は本発明のかご型のしゃもじ補助具であり、１は複数の網目状の区画を有するかご部であり、２はしゃもじの持ち手部と一緒に握る握り部であり、３はしゃもじ補助具を固定するため裏側に設けた第一の係止部であり、握り部２の反対側に設けられている。図２は本発明のしゃもじ補助具３をしゃもじ４に装着した図であり、しゃもじ４の掬い部の先側が第一の係止部３に嵌り、しゃもじ補助具がしゃもじ４に装着される。
【０００９】
図３は飯を掬いあげる掬い上げ部６と一体になった補助具であり、掬い上げ部６は、かご部１に固定され、第一の係止部３と第二の係止部５が握り部２と反対側に取り付けられている。第一の係止部３はしゃもじ４の先端部が嵌挿されるように開口している。また、第二の係止部５は、しゃもじ４の先端部の一部が嵌合されるように湾曲状に形成されている

。第一の係止部３と第二の係止部５により、しゃもじ４の大きさに合わせてしゃもじ４が補助具に固定される。図４（ａ）は図３の補助具の第一の係止部３にしゃもじの前部をかけて大サイズのしゃもじを装着した図であり、図（ｂ）は補助具の第二の係止部５にしゃもじの前部をかけた小サイズのしゃもじを装着した図である。

【００１０】

図５の（ａ）図はしゃもじに本発明のしゃもじ補助具を装着して釜の底の方からご飯を掬いとった図であり、（ｂ）図はしゃもじ補助具を装着したしゃもじを握ったままひっくり返して米飯を落下させる図である。

【００１１】

図６（ａ）は一般的なしゃもじ４であり、（ｂ）図はしゃもじ補助具の第一の係止部３が係合する切欠部７と、握り部２の一部が嵌合する嵌合溝８が設けられた専用のしゃもじである。（ｃ）図はしゃもじ４の柄の一部に凹部９を設けた専用のしゃもじであり、（ｄ）図は（ｃ）図のしゃもじを使用するときのしゃもじ補助具であり、凹部９が係合する凸部１０が握り部２に設けられている。これにより、しゃもじの前後左右の安定を保つ事の出来、握り部分にバネ様の性質があれば握った時の凸部１０が嵌り、放した時は外れるので都合が良い。

【符号の説明】

【００１２】

１　かご部
２　握り部
３　第一の係止部
４　しゃもじ
５　第二の係止部
６　掬い上げ部
７　切欠部
８　嵌合溝
９　凹部
１０　凸部

【要約】

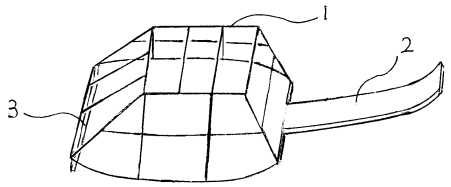
【課題】炊飯後に別容器に移す場合、塊り状になるのを防ぐために米粒の外側の水分を飛ばすためにしゃもじを縦にして飯切りという行為をして空気に触れさせ水
分を蒸発させる必要があったが業務用では時間に制限があり、丁寧に隅々まで行き届かず、潰れた米粒の塊りができ米の味覚の大きな役割である粒々感が失われていた

【解決手段】

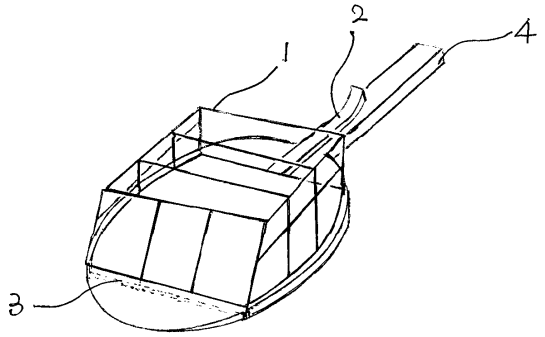
本発明は、しゃもじに取付けるかご型の補助具であって、該補助具は複数の網目状の区画を有する籠部と、しゃもじの持ち手部と一緒に握る握り部と、しゃもじを固定するための第一の係止部とを備えたことを特徴とする。

【選択図】　図１

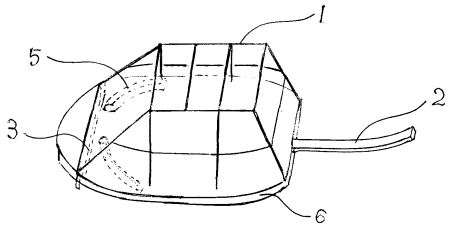
【図１】



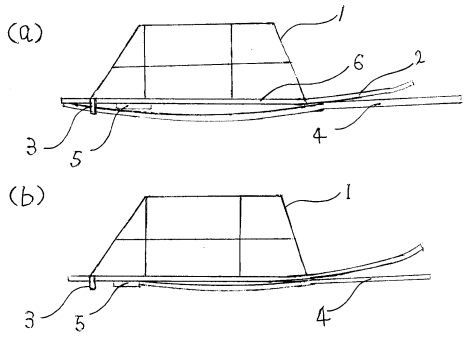
【図２】



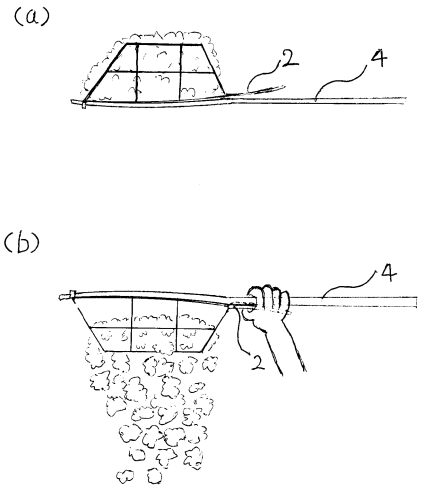
【図３】



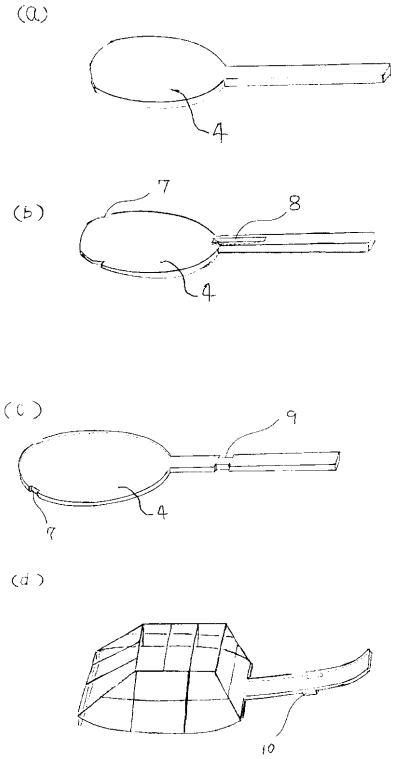
【図４】



【図５】



【図６】



フロントページの続き

(56)参考文献　実開昭６２－１３４５２５（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５７－１３５３４２（ＪＰ，Ｕ）
韓国公開特許第１０－２０１４－００２０６９１（ＫＲ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｊ　４２／００　－　４４／０２